

令和3年度 第1回長野市林業振興審議会 議事録（概要）

日 時：令和3年6月28日（月）午後2時から午後4時まで

場 所：中部公民館3階31会議室

出席者：委員13名、事務局8名 計21名

次 第：1 開会

2 委嘱

3 挨拶

4 自己紹介

5 議事

（1）長野市森林経営管理計画（案）について

（2）森林環境譲与税事業について

（3）その他

議事（概要）

議題（1）長野市森林経営管理計画（案）について

資料1-1, 1-2, 1-3, 1-4, 1-5に基づき事務局から説明

質疑

（委員）経営管理指標の生産林試算面積9,378haと年間標準伐採量40,000 m³/年というのが変動性のあるざっくりとした数字だと思う。

（事務局）40,000 m³という数字は漠然としたところがあるので、チャートで説明するなど工夫して分かりやすい形にしていきたい。

（委員）森林・林業の課題に林業のイメージアップと記載があるが、課題はイメージアップというより安全性の確保だと思う。林業は他の産業に比べて労働災害が多く低賃金ということが非常に問題になっている。これから譲与税を使った事業が増えていくなかで長野市には担い手対策にトップバッターで踏み込んでいただいている素晴らしいと思うので、従事者の確保や安全性の確保という方針がいいと思う。

（委員）機械の導入などにより安全管理の質も変わってきており、イメージが表に出て先行するよりも、中身がどうなのかを工夫して書いて欲しい。

（事務局）担い手対策として長野市フォレストワーカー育成事業を今年度から始めていく。3年間補助金を使っていただいて確実に定着していただきたいと考えている。安全性なども昔とは変わって働きやすい環境を目指しているということ、検討して書いていきたい。

（委員）林業の人材は長野市だけで働くわけではないので、隣接市町村との連携についても記載して欲しい。

(委員) 現在テレビで放送されているドラマの舞台が森林組合であり、林業が話題になっているので今のうちにやっていくべき。

(委員) 若者には林業がどんな仕事かイメージできない。誤解もある。きつかったり融通が利かない面もあるが、嘘を言ってもいけないので、正しい情報を普及していく必要がある。

(委員) 若者は高性能林業機械に興味があり、働き方の考えも変わってきているので、そういったこと含めて戦略的にやっていく必要がある。

(事務局) 森林組合も広域でやっているところなので長野市も各市町村を連携し、打ち合わせしていく中で、より良い方法になるよう進めていきたい。

議題(2) 森林環境譲与税事業について

資料 2, 2-イ, 2-ウ, 2-エに基づき事務局から説明(森林づくり・活用事業、森林とふれあい体験事業について)

質疑

(委員) 搬出間伐と切捨間伐の件数が同じだが、切捨間伐の場所で搬出したのか。

(事務局) 別である。搬出間伐の場合は搬出する材積に対して補助金を出すという形になっていて、場所によっては間伐の補助金と搬出の補助金を貰っているところもある。

(委員) 資料 2 の森林整備に対する補助金は令和 2 年度と令和 3 年度はいくらなのか。また、危険木処理と薬剤地上散布はどのような内容か。

(事務局) 令和 2 年度の決算額は 5,868,000 円、令和 3 年度の予算は 40,000,000 円である。危険木処理は枯れて白骨化してしまった松くい虫被害木などの、折れたり枯れた危険な木を処理するものである。薬剤地上散布は飛んでくるカミキリからアカマツを守るために消毒するもの。

(委員) ふれあい体験は先ほどの話にあった普及活動に応じて、林業への導入としてとても大事だと思う。そのためにも長野市には体験フィールドの整備をしていただきたい。

(委員) 高性能林業機械やバイオマス発電施設、伐採現場の見学も人気があるのでやっていただきたい。せっかく林務が関わっているので、実際の林業を見せてイメージをしっかりと持ってもらいたい。

議題(2) 森林環境譲与税事業について

資料 2-アに基づき事務局から説明(森林整備に関するアンケートの実施について)

質疑

(委員) 長野県内の他の市町村はアンケート全戸配布をしているのか。

(委員) やっていない。長野市では広報に挟み込んで全戸配布する。

(委員) 95%の森林を持っていない方にも木材を使うことはいいことだと PR できればいい。

(委員) 全戸配布ということでコンパクトにまとまっていていいと思う。立ち入ったところまでいってしまうと全戸配布の意味が薄れてしまう。木材の利用や公益的機能について知っていただく入口の部分と考えていいと思う。「よく分からない」という回答を入れておけば、市民の方々がこのテーマについては分からないんだなと実感できて普及活動に反映できる。税金の話でもあるので、全体の意識を聴き、これを根拠や抱負にしてもいい。

(委員) 今回のアンケートは市長が全戸配布にするとおっしゃったと聞いている。アンケートで終わったら意味がないが、今回意向調査をやるのは無理があるので、意向調査へのステップとして使えばいい。

(委員) こんなこと(アンケート)に税金を使うなんてという声が多いと思う。無記名だと誰がどう思っているかが分からないし。事務局の方でこれからのイメージは持っていると思うのでそこに繋げて欲しい。

(事務局) 前は地区を絞って予備調査を行い、今回後退したようなイメージもあるかもしれない。しかし前回の結果が全森林所有者から同じように帰ってきたら我々が対応できない。これから森林をどうするかという話になっていくなかで一番大事なものは所有している森林の場所が分かるということだと思う。前回の予備でも場所が分からないという声が多く、おそらく全体でやってもそうなる。まずは全市民に、「長野市はこういうことをやっているんですよ」と知っていただき、我々も傾向をつかんでいきたい。

(委員) 5%の森林所有者への質問を100%に聞いても意味がない。次のステップや目標をクリアにする、分かりやすい資料を添付するなどの工夫もお願いしたい。

(委員) アンケートにある「長野市の森林の44%は人工林」という文が市民の方々に伝えるには弱い。最初に国土を守る・水源を涵養・温暖化防止などの働きがあります、しかし手入れの間伐がなかなか進まない状況なので税金をいただきます、といった説明で理解を求めていく必要がある。本当に山を整備しなくてはいけないということをPRできればいい。

(委員) このアンケートはかなり慎重にやったほうがいい。焦りすぎて全戸配布で所有者の情報を知ろうとしてもどうかなと思う。最終的な意向調査に繋げるという前提でやっていただきたい。

議題(3) その他

意見なし